

## 令和3年度第2回愛知県循環器病対策推進協議会議事要約

【日時】 令和3年8月20日（金） 午後4時から午後5時30分  
（オンライン開催）

【委員】 出席 19名、欠席1名

【職員】 14名

【傍聴者】 4名

### 【内容】

#### 1 挨拶（愛知県保健医療局 技監 長谷川 勢子）

- ・ 愛知県循環器病対策推進計画策定にむけて、6月1日に開催した第1回目の協議会で、委員の皆様方からいただいた御意見を参考に、計画の素案を作成した。
- ・ 本日は、この素案について御検討をいただき、より有効性の高い計画に仕上げていきたいと考えている。

#### 2 議題

- （1）愛知県循環器病対策推進計画素案について（資料1～4）
- （2）今後のスケジュールについて（資料5）

#### <主な意見>

- 「脳血管疾患」、「虚血性心疾患」、「心不全」の年齢調整死亡率について、男性は全国平均よりも良く、女性は平均並であるが、全国の中でどの位の位置にあるのか。
- 死亡率は医療体制を、脳卒中や心筋梗塞の発症率は予防をみる指標になる。発症率のデータが取れば目標指標とするとよい。
- 大動脈瘤及び解離は、具体的にどういふことをすれば死亡率を下げられるか考える必要がある。
- 心臓リハビリテーションの実施件数は、全国より多いが、日本においては、外来の心臓リハビリテーションは、患者全体の5%位にしか行われていないといわれているため、心臓のリハビリテーション件数の目標は「増加」でよいと考える。
- 「虚血性心疾患 退院患者平均在院日数」の目標が減少となっているが、入院日数が減ると、運動・栄養指導等の二次予防に関する患者教育が十分に行え

なくなる可能性もあるため、平均在院日数をこれ以上減らすことが正しいことなのか考える必要がある。

- 脳卒中の患者さんや家族は、病気や後遺症のこと、生活や就労に関すること、経済的なこと、福祉制度に関する事など、様々な悩みや困りごとを抱えているが、相談先やサポート不足を感じている人もいる。当事者やその家族との交流を望む人もおり、個々の状況に応じた支援が必要である。
- がんの拠点病院には、がん相談支援センターがあり、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどが相談対応を行っている。循環器病についても専門家に相談できるようなシステムができるとよいと考える。
- 循環器病に関する啓発の回数や成果等を目標としてもよい。
- 成人の先天性心疾患の患者さんを診る医師や医療機関が限られている。人材の育成など時間はかかるが、成人の先天性循環器疾患に係る体制を整備する必要がある。
- 男性の年齢調整死亡率が全国平均よりも良いのは、職場健診などにより、早い段階で、病気の発見・管理ができていることも関係しているのではないか。女性の健診受診率を向上させる必要がある。
- AEDについて、小児も含めて、啓発等が実施できるとよい。
- 食塩量を減らすためにレストランのメニューに食塩量を記載する、禁煙の飲食店に健康マークを配布するなど、外食産業と連携した取組が効果的と考える。
- 素案 14 頁の図表 18 では、高齢者にバランスのよい食事をとっている方が多くなっているが、実際には、低栄養の方などもみえる。高齢者の方の意識と実際の状況にずれがあるように感じる。